

# 令和元年度 地域生涯学習活動実践交流セミナー 事業報告

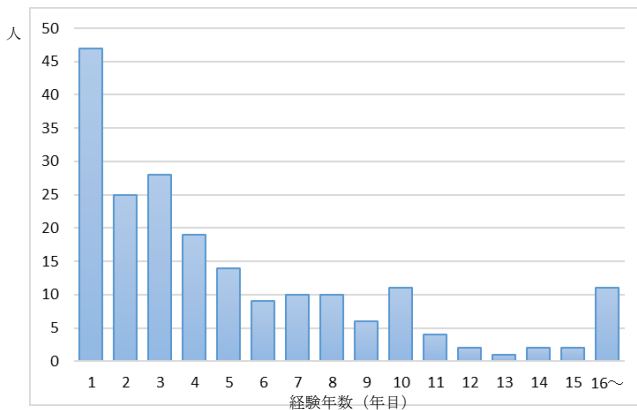
## ○ 事業の概要

- 1 研究テーマ 地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働  
～災害に負けない地域コミュニティの形成～
- 2 目的 本道における生涯学習活動の一層の推進を図るため、実践事例の交流等を通し、北海道における生涯学習活動推進上の課題解決を図る。
- 3 主催 北海道立生涯学習推進センター、北海道社会教育主事会協議会
- 4 期日 令和2年2月13日（木）～14日（金）
- 5 会場 道民活動センタービル「かでる2・7」（かでるホール他）
- 6 対象 市町村・市町村教育委員会職員、各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員等）、生涯学習・関連施設職員、社会教育関係団体職員、民間団体（NPO、ボランティア、企業等）関係者 等
- 7 参加状況 206名

### 管内別

ブロック	道 央			道 南				道 北			道 東				道外
	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	林-㇏	十勝	釧路	根室	
参加数	22	36	9	10	13	13	9	23	6	7	22	18	9	7	2
小計	67			45				36			56				2
総計	206														

### 経験年数別



### 所属別

所属	人数
市町村教育委員会 (含公民館)	165
教育局	17
青少年教育施設	10
その他	14

## 8 プログラム

1日目	10:00	10:15	10:45	11:00	11:30	11:55	13:10	13:40	14:05	14:20	15:50	16:00	17:30
	受付9:30～ 資料展示・VTR放映	開会	テーマ 説明	移動	事例発 表①	事例発 表②	昼食休憩 資料展示・VTR放映	事例発 表③	事例発 表④	移動	講演 ライブ配信	移動	研究協議 1
		1階ホール			10階		820	10階			1階ホール		710, 730, 820, 1060
2日目	9:15	10:45	11:00	12:00	12:15								
	開場 8:45	研究協議 2	移動	まとめ	閉会 テ次期 マ								
		710, 730, 820, 1060		1階ホール									

(1) テーマ説明

【説明】北海道立生涯学習推進センター主査 田中尚史

【内容】今回のセミナーでは「社会教育行政の役割」「社会教育職員の役割」を整理するためにまんだらチャートを使用することを説明した。

(2) 情報提供

【説明】北海道立生涯学習推進センター主幹 五十嵐秀介

【内容】道内市町村における社会教育主事の自主設置を促進するための新たな支援方策として、道教委が社会教育主事講習を実施し、受講しやすい期日・場所で講習を開催する予定であることを説明した。

(3) 事例発表

	道北ブロック(1030 会議室)	道東ブロック(1040 会議室)	道南ブロック(1050 会議室)	道央ブロック(1060 会議室)
① 11:00 ～ 11:25		《根室》 「防災・減災を通じた人と人とのつながり」 根室市教育委員会 下内 沙織	《日高》 「日高管内における青少年のリーダー養成について」 浦河町教育委員会 武田颯太郎	《石狩》 「働き世代の積極的な地域参加を促すための研究」 石狩市教育委員会 栗谷 幸介
② 11:30 ～ 11:55	《宗谷》 「宗谷管内ジュニアリーダー研修会が目指す地域コミュニティ像」 礼文町教育委員会 柴田 圭	《釧路》 「地域指導者の発掘と養成」～人づくりに寄与する「まなviva厚岸」の取組 厚岸町教育委員会 阿部 真理子	《胆振》 「平成 30 年度北海道胆振東部地震被災地におけるこどもの居場所づくり～災害前後のつながりから生まれた活動の一考察～」 厚真町教育委員会 斉藤 烈	《空知》 「防災教材『空知版クロスロードゲーム』の作成と今後の取り組みについて」 新十津川町教育委員会 加藤 敏晃
③ 13:10 ～ 13:35	《留萌》 「避難所運営ゲーム『さすねなぶる』の活用について(仮)」 小平町教育委員会 長澤 政之	《十勝》 「ほんべつ元気学宿と地域の関わり」 本別町教育委員会 竹下 春菜	《渡島》 「渡島社会教育主事会研修会の取り組みから～防災冬キャンプ～」 木古内町教育委員会 太田本気	《後志》 「青年組織によるコミュニティづくりに関して」 喜茂別町教育委員会 白川博順
④ 13:40 ～ 14:05	《上川》 「上川管内社会教育主事会南部ブロック研究事業『ふらの冒険王』」 中富良野町教育委員会 千葉駿人	《オホーツク》 「野外音楽フェスを通じた人材育成・地域づくり」 置戸町教育委員会 和田 潤	《檜山》 「地域学校協働活動からみた担い手育成に向けた取組」 今金町教育委員会 樋口 喬士	

(4) 講演

いのちを守り 災害強い地域をどう耕すか –いま社会教育・生涯学習ができること–

【講師】福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任教授 天野和彦氏

- 1930 年当時の北伊豆地震の避難所と現代の避難所は、変わっていない。先進地イタリアでは、きれいで広いトイレ、1 時間に 1,000 食作ることができるキッチンカー、ベッドが真っ先に届くようになっている。
- 「人道憲章と人道対応に関する最低基準」(スフィア基準)では、避難者はどう扱われるべきであるかを個人の尊厳と人権保障の観点で示している。
- 福島復興の課題は、心の復興。仮設住宅での孤独死もあり、支援者の仕事は、命を守ること。寂しいと人は死ぬ。寂しくさせないために交流と自治の仕組みを作るのが行政の役割。福島の巨大避難所ビッグパレットでは、足湯、サロンを開設した。このような取組はまさに社会教育の仕事。
- 社会教育が市民活動を高めることで、地域力が高まる。地域力の高まりが「災害に負けない地域コミュニティ」につながる。



いのちを守り災害に強い地域をどう耕すか

←講演動画 配信中

このQRコードを  
スマートフォンで  
読み取ると

(5) 研究協議

会場	第1会場 (運営：道央)	第2会場 (運営：道東)	第3会場 (運営：道南)	第4会場 (運営：道北)
司会進行	秩父別町 石井敏貴	大空町 歌丸庸介	鹿部町 清水麻衣	留萌市 峨家知広
記録	北広島市 南紗恵子	浜中町 江口剛	江差町 高橋昇悟	礼文町 柴田圭
人数(2日目)	50 (46)	46 (42)	46 (43)	40 (37)
グループ数	8	8	8	8
経験年数	短い	→	→	長い

<1日目> グループでまんだらチャート作成

はじめに「災害負けない地域コミュニティ」に必要な「要素」を8つ挙げた。次にその「要素」を地域コミュニティに根付かせるために必要な「社会教育行政職員の役割」「社会教育行政の役割」を整理した。

<2日目> 会場ごとに1枚のまんだらチャート作成

会場ごとに、グループが作成した「まんだらチャート」でコンペを行い、有効な「社会教育行政職員の役割」「社会教育行政の役割」を抽出し、1枚のまんだらチャートにまとめた。



第1会場のまんだらチャート

住民との距離を縮める アクティビシニアを見 つけ出す	若者のスキルを生か せる場	役場人カード	スポーツを通した交流	高齢者大学と児童ク ラブのコラボ	子育て世代のママた ちが集う場づくり	アイデア出しワー クショップ	(異年齢)交流 (世代内)交流	避難所運営
学生ボランティア(高 校・大学)の活用	日常のつながりを意 識したネットワーク	親子にプラスした三世 代事業の展開	あいさつ	仲間づくり (ソフト・ハード)	ふるさと教育で子ども と住民をつなげる。	プレイパーク	創造力(想像力)	キャンプ事業
"子どものため"で誘い 出す	C・Sによる学校への地 域人材活用	行政の横展開(福祉・ 企画等)	住民とともに考える機 会をつくる	団体同士をつなげる	異世代交流ができる イベント	学校や町を巻き込ん だ避難訓練	待ちをイメージしたク ロスロードゲーム	首長への町民プレゼ ン制度
お知らせメール SNSを活用 ・イベント情報 ・防災情報	ポスター・チラシの作 成 掲示板を活用	他部署との情報共有	日常のつながりを意 識したネットワーク	仲間づくり (ソフト・ハード)	創造力(想像力)	魅力の発信(PV)	交流の場をつくる	郷土芸能
HPの更新 イベント告知 ※掲載内容の精査	情報	広報誌・新聞など紙 媒体の活用	情報	災害に負けない 地域コミュニティ	地元愛	特徴を活かしたイベ ント	地元愛	魅力の発見
交流の場をつくる。 交流の場に向かう。	まちの人に武勇伝を 聞く	まちの人物カードをつ くる	防災意識 防災知識	リーダー コーディネーター	みんなで子育て	同窓会のプロデュ ース (サポートも)	名産物	職業体験 (地元業者)
被災地見学会	防災運動会の実施	備蓄選手権	働く世代が参加しや すい環境づくり	他町の視察研修	ジュニアリーダーの育 成と活躍の場提供	学校と地域の連携	部活・少年団活動	異世代交流の機会
避難所お泊まり会	防災意識 防災知識	防災情報の発信	働く世代を引き込む 魅力ある内容	リーダー コーディネーター	情報収集を密にした 人材発掘	高齢者との交流	みんなで子育て	子ども会活動の活性 化
手づくりハザードマ ップ探検	職員への防災教育	小中高での防災教育	団体活動の支援	リーダーの確立 (名簿作成)	研修会の実施	地域で見守る	ふるさと学習	休日の教育

## 第2会場のまんだらチャート

地域イベントに誰でもいつでも参加しやすい雰囲気作り	防災キャンプで教育+コミュニティ作り	身近なものを材料に防災工作教室を開催	活動の場の提供	アプローチ	地域住民との連携協同	他市町村との関わり	異年齢層の交流	中心人物のパイプ
座談会で腹を割って話して顔見知り	<b>異世代交流</b>	世代に合わせた情報発信で交流機会アップ	学習の機会	<b>担い手育成</b>	コーディネート	交流の場	<b>広域連携</b>	お祭りなどのイベント
様々な事業展開イベント参加で幅広い年代の知り合いを作る	派遣講座等を活用し防災に関する講習、意見交換会を開催	通年の講座・研修が日常的につながるコミュニティ作り	人材発掘育成	情報提供発信	対象・目的の明確化	庁舎内の横のつながり	異業種のつながり	地域課題の発掘
図書・情報センター	ボランティア、人材バンクの作成	地域課題まちづくり講座	<b>異世代交流</b>	<b>担い手育成</b>	<b>広域連携</b>	あいさつ	SNSの活用	避難訓練参加
防災教室	<b>公民館機能</b>	家庭教育学級	<b>公民館機能</b>	<b>災害に負けない地域コミュニティ</b>	<b>防災意識</b>	地域リーダーとのつながり	<b>防災意識</b>	児童生徒への意識付け
PC、スマホ教室	ESD(SDGs)	健康講座	<b>郷土学習</b>	<b>高齢者の存在</b>	<b>ゆるいつながり</b>	出前講座	非常食	地域の行事に参加
地理・地形を知る	歴史を知る	"私のまち"マップを作る	住民の中で一番多くいる(シルバー人材バンク)	公民館事業の企画・実施	近所の見守りの仕組みづくり	たよる(住民に仕事をふる)	助け合い	日常的なあいあつ
自然を知る	<b>郷土学習</b>	人を知る	知識・経験の宝庫(異世代交流会の実施)	<b>高齢者の存在</b>	(健康増進)ふまねつと運動	物資の貸し借り	<b>ゆるいつながり</b>	顔を知っている
産業を知る	建物を知る	団体を知る	子どもたちの見守り運動	地域ボランティア	高齢者大学	町内会、自治会	同じ職場・学校	名前を知っている

## 第3会場のまんだらチャート

親子で楽しく学習	防災キャンプ	自ら考え行動	防災無線	地域の物知りさんの活用	子どもたちの活動	他部署との情報共有	困りごとを相談	まちの人と世間話をしよう!
応急処置勉強会	<b>子ども目線の防災意識啓発</b>	みんなで歩いて避難ルートマップづくり	調べた情報を発信する機会	<b>情報共有</b>	町内会・PTA連携	まちの情報収集	<b>地域を知っている</b>	まちの集まりに出かけて人脈を増やそう
子どもだけで活動	コミュニケーション能力の向上	地域に詳しい人材を知る	情報BOX	学習機会の提供	SNS	地域資源の把握	人材バンクの作成・共有	若い世代へ伝承
地域の人	世代間交流	組織化	<b>子ども目線の防災意識啓発</b>	<b>情報共有</b>	<b>地域を知っている</b>	地域の核となる人同士をつなげる	語り場	フリースペース(住民交流ステーション)
ひらかれた学校づくり	<b>学校を核とした地域づくり</b>	地域学校協働活動	<b>学校を核とした地域づくり</b>	<b>災害に負けない地域コミュニティ</b>	<b>地域住民とのつながり</b>	他行政機関へのはしわたし連携	<b>地域住民とのつながり</b>	あいさつ
環境整備	学校の周知	役割分担	<b>住民が思いを叶えることができる</b>	知識(町民・行政職員が知っておくべきこと)	(有事の際に)自ら動くことができる住民がいる	団体間交流で知り合いを増やす	他世代交流会	外勤を増やす
かたり場	世代別の広報活動(必要な情報を必要な人のところへ)	「自ら動いた」という成功体験を積ませる	住民の方の趣味・特技	避難所の備品	住民の連絡網	リーダーの育成	外部との交流	自分事という意識
部署間の連携	<b>住民が思いを叶えることができる</b>	団体・サークル同士の交流、つなげる	地理的特性	知識(町民・行政職員が知っておくべきこと)	要支援者	信頼関係	(有事の際に)自ら動くことができる住民がいる	地元愛
職員の柔軟性	相談しやすい環境づくり	アンケート(web)なかなか話ができない人のために	過去の災害対応の改善点	災害ごとの避難先	初動	集まる	ネットワーク(人材)	成功体験

## 第4会場のまんだらチャート

災害の歴史学習会	地場産業体験会	異世代交流会	乳幼児向、体験しながら、遊びながら	学校教育向 授業として、 小→高(一貫教育)	町内会 ・役員・住民	おいしいグルメ	参加したくなる事業の 企画実施	やってみたくなる体験 活動の周知
町内会防災運動会	<b>地域への愛着</b>	ふるさと発見ツアー	合同で (子ども、大人も)	<b>学習会</b>	企業向け ・管理職 ・一般社員	異世代交流	<b>人が集う場の設定</b>	参加者同士が自然と 交わるしかけの設定
防災・福祉まつり	ハザードマップ ウォーキング	転出者との交流会	学習会の年間予定を 企画する。	指導者を養成 ・短期、長期 ・目的別	学習会より ゆるーいプチ学習会 (だれでも参加)	既存の繋がりを強化 する(学校・団体)	人が集まるっている場 所に出向く	お友達を連れてきたく なる仕掛け
キーマンの確保	体力づくり(自力で避 難)	運営協力者を増やす	<b>地域への愛着</b>	<b>学習会</b>	<b>人が集う場の設定</b>	つなぎ役	世代間交流	顔を合わせる(メール だけじゃダメ)
生きがい	<b>高齢者サロン</b>	災害と非難のリスクを 学ぶ	<b>高齢者サロン</b>	<b>災害に負けない 地域コミュニティ</b>	つながり	SNSの活用	つながり	簿の設定
異世代との交流	知人をささう仲間づ くり	誰に頼るかを決めて おく(地位のための)	<b>動ける若者を育てる</b>	<b>地域住民を知る</b>	<b>防災意識の向上</b>	一緒に汗を流す	子どもの頃から	おいしい食べ物
高校生の事業活用 (シニアボラ育成)	顔を出す(情報収集 →ニーズ把握→しか け)	たまり場づくり(場所、 機会)	町内会の交流	子どもマップ	誘う(きっかけづくり)	前例・事例を研究する	役場内での連携委 員会(横のつながり)	啓発(広報誌の活用)
自己肯定感を育む (役に立つ実感)	<b>動ける若者を育てる</b>	ゆるく長くやってみる (既存にとらわれない)	飲食会	<b>地域住民を知る</b>	職業マップ	災害を経験された方 のリアルな話を聞く	<b>防災意識の向上</b>	制度に対する理解 (学習)
イベント企画 運営の経験提供(○ △実行委員会)	体験活動を提供(交 流経験促進)	地域との連帯感(異世 代交流、地域の一員 としての自覚)	異世代交流(イベント)	民生委員	名簿(情報)	体験の場の提供	非常食を使った料理 講座	学びの場の提供

## (6) まとめ



司 会 進 行 陸別町教育委員会 大鳥居 仁  
 第1会場発表者 石狩市教育委員会 菊地 直人  
 第2会場発表者 清里町教育委員会 原田 賢一  
 第3会場発表者 豊浦町教育委員会 渡邊 つづり  
 第4会場発表者 富良野市教育委員会 奥田 俊二

<各会場から、全体に共有したいこと>

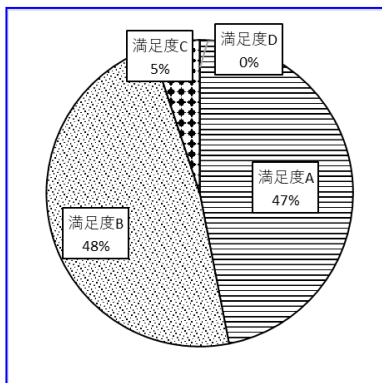
- 第1会場 ○世代間交流、特にママさんと子どもの世代の交流により地域みんなで子育てをしていく環境が必要。
- 第2会場 ○どの要素に対しても「地域」というキーワードが入ってきていた。要素「郷土学習」では、地域の住民が地域の歴史、地理、自然、産業、人等を知ることができるよう学習活動を行うことが行政の重要な役割とまとめられた。
- 第3会場 ○行政職員の役割として、日頃からの住民や団体、行政内他部署等との関係性づくりが大切。行政としては、語り場等の場づくりの必要性が話し合われた。自助、共助、ご近所のつながりが、結果として災害に負けない地域コミュニティに結びつく。
- 第4会場 ○要素として「つながり」が大切であり、そのための行政職員の役割として、人と人をつなぐ仕掛けが必要で、そのためには「おいしい食べ物」も重要であるという意見があった。

## ○ 事業の満足度と参加者の声

アンケート結果について、回答者数 100 名 (回収率 48.5%) ですが、設問ごとに回答者数が異なります。

満足度（高← A・B・C・D →低）を聞きました。

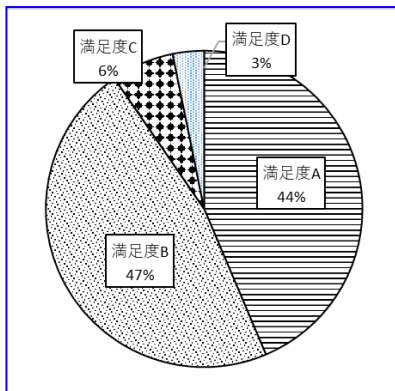
### 1 セミナー全体の満足度



	A	B	C	D
全体	46	47	5	0

- 新しい手法を取り入れた運営が参考になった。
- 市町村の社会教育関係職員との交流、知識を深めるなど充実したものとなった。
- 自治（コミュニティ）を形成する意義を再認識することができた。
- 時間が足りなくてバタバタした印象。

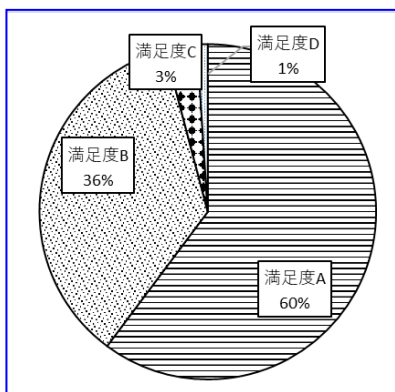
### 2 テーマ説明



	A	B	C	D
テーマ説明	27	64	12	1

- 目的が理解しやすくとても良かったです。
- 地域人材育成の観点がより詳細になり、メインテーマを深く理解することができた。
- あまり必要ないかなと思います。

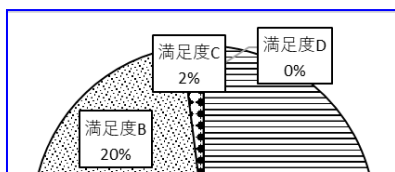
### 3 事例発表



	A	B	C	D
事例発表	59	35	12	3

- 地域の事例をたくさん聞いて良かった。全発表分の資料がもらえて良かった。（聞けなくても確認できた）
- 他の市町村の事業が知れてためになりました。
- プログラム的に難しいとは思いますが、もう少し時間がほしい。
- 事例発表の中で取り組みの紹介だけで終わっているのがいくつか。具体的な工夫や、ヒミツのやり方など聞けたらまねしようかなと思えるかなと思いました。

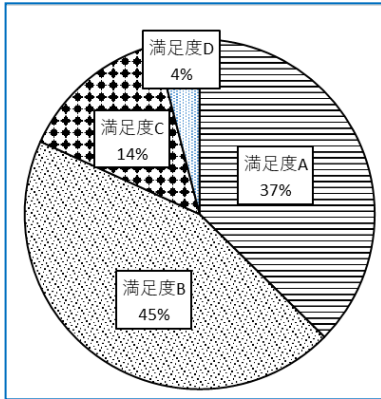
### 4 講演



	A	B	C	D
講演	77	20	2	0

- 災害がないときでも地域住民との関わりは大事だと感じた。
- 避難所の様子が70年前とさほど変化がないことにびっくりした。海外の先進的な取組を参考にすると必要があると感じました。
- 公民館の重要性を知ることができた。実際の避難所の事例を用いての説明のため、分かりやすくとても勉強になった。

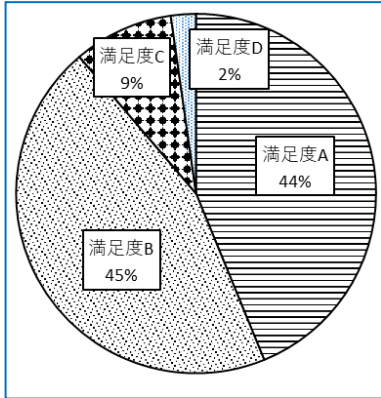
## 5 研究協議



	A	B	C	D
研究協議	37	44	14	4

- 経験年数で分けすることで同じような目線で協議することができました。それぞれの区別での協議でどのような話が出たのか気になります。
- 要素を8項目出すことに時間をかけたかった。グループの中で要素と、手法が同じようになってしまった。
- 慌ただしかった。司会の方が素晴らしかった。
- ワーク内容の一部を予め参加者に作業させておく形でも良かったと思います。

## 6 まとめ



	A	B	C	D
まとめ	39	40	8	2

- 成果物を見ながらだったので聞きやすかった。ファシリが素晴らしかった。
- 各分科会のまとめを聞いて大変参考になった。まとめるのが大変だろうと思った。時間的に共通項をまとめるのは難しい。
- 作成したまんだらチャートの使い方について考える時間がない無意味。何もまとまっていない。
- 全体で共有できるのはいいが発表者への負担が多いように感じた。

## 7 自由記述欄から

- 自分なりの社会教育に対する考えを明確に持つことが大切だと思いました。
- 自らが町民の方々を知り、関係性をつくっていくこと、自分がまず町民から信頼される職員になれるよう、日頃から業務にあたる必要があると改めて感じた。
- 「防災」は、コミュニティ形成の手段であるということを感じることができました。
- 自治をつくることへの意義を伝えていきたい
- パネル展示の募集がありましたが、観光パンフ、ふるさと納税パンフを各町持参してもらえば、より発信がしやすくなると思いました。